

はじめに

地球研平成19年度フルリサーチ (FR) 研究「社会・生態システムの脆弱性とレジリアンス」は本プロジェクトとしての一年目を無事終了した。

平成19年9月には、最初のルサカワークショップを開催し、多くの研究者や実務家の参加を得た。参加機関は、主要研究協力機関であるザンビア農業研究所(ZARI)、ザンビア中央統計局(CSO)、ミシガン州立大学食料安全保障プロジェクト(FSRP/MSU)、JICA ザンビア事務所、ザンビア大学(UNZA)であった。その他にもレジリアンスプロジェクトの活動に興味を持った機関も多く、今後それらの機関との研究協力の展開が期待される。

平成19年度はプロジェクトの研究活動の主要部分を2つのサイトで開始した。東部州ペタウケ郡では、異なる休閒システムが作物収量と土壌に与える影響を調べる実験をスタートさせた。南部州シナゾングェ郡では、大学院博士課程プログラムの一環として2名の大学院生によって村落での長期滞在に基づく調査が2006/2007 農業シーズンに行われた。またプロジェクト研究員が2007/2008 農業シーズンに現地滞在し、圃場観測を実施している。彼らの現地での調査はレジリアンスプロジェクトにとって大きな財産である。圃場レベルでの雨量と気象を観測するために、雨量計と気象ステーションが設置され、農業シーズン前の10月から集中的な世帯調査が開始された。南部州では2007/2008 年の農業シーズンの前半は大雨に見舞われ、洪水による農作物の被害が懸念されている。衛星データを使った土地利用と植生被覆の歴史的変遷の状況把握と広域世帯調査のデータ分析も進行中である。

2007年は世界的な原油高を経験した年でもあった。内陸国のザンビアでは当然ガソリンとディーゼルの価格が高騰し、我々はフィールド調査のコスト高に苦しんだ。この原油高は世界史の中で第3次石油危機ともなる可能性があり、途上国経済や農村世帯への影響は今後の課題である。

本プロジェクトは今年度のFR1の段階を終えた。1-3FRメンバーの方々にはプロジェクトの調査を開始させるためにご尽力をいただき感謝したい。また地球研のプロジェクト評価委員会(PEC)、所長、プログラム主幹、管理部のスタッフの方々をはじめ、研究部スタッフの方々にこのようなプロジェクトを実施するためにご支援いただいたことに感謝申しあげる。

平成20年3月

総合地球環境学研究所

1-3FR プロジェクト・リーダー

梅津 千恵子